

委員会等活動報告 —北の大地から未来に向けて—

●北海道本部女性技術士(有志グループ)

女性技術士の活動 (技術士全国大会(札幌))

活動紹介

「第 40 回 技術士全国大会(札幌)」(2013 年 10 月 3～6 日開催)では 4 つの分科会が開催されました。そのうち、第 1 分科会は北海道在住の女性技術士の企画・運営により「技術者のワーク・ライフ・バランス」を開催しました。

分科会の主旨は、全国大会のテーマ「北の大地から明日の日本を拓く」にふさわしく、男女を問わず技術者として仕事と生活の調和を図りながら、多様な人材を活かして、より社会に貢献する次世代の技術者の新たな資質を提案し、北海道から発信することであり、技術者のワーク・ライフ・バランスを考えた働く環境づくりについて、ワークショップでディスカッションを行い、そうした環境を創出するために私たち技術者がどう行動すればよいのかを考えました。

ワークショップに先立ち、第 1 部では、関連する話題提供を梶井祥子氏(札幌大谷大学社会学部教授)と荒木正芳氏(北海道建設新聞社社長(当時は取締役(事業担当)))よりいただきました。第 2 部では 4 つの視点(学生、管理職、女性、未来を担う技術者)から、ワークショップでディスカッションしました。そして第 3 部では、ディスカッションの結果をグループ別に発表を行いました。ワークショップ参加者は 42 名、コーディネーターは、金子技術士、飯野技術士、金技術士、木本技術士、藤井氏、永井技術士、片石(旧姓古屋)技術士が務めました。

主な結果

(1) 梶井先生からは、ワーク・ライフ・バランスについて、日本ではいまだ認知度が低いという実態

片石 温美(かたいし あつみ)

技術士(建設・水産部門)

北海道本部 幹事

NPO 法人マリネットワーキング理事長

中央大学機構准教授(客員)

苫小牧漁協みなとアドバイザー



(内閣府の調査)があり、条件整備と実現のためのキーワードとしてダイバーシティ(多様性)の要請、雇用形態の公平性、格差解消が挙げられました。

(2) 荒木氏からは、技術士が市民から共感を得られるように、まずトリックスターをつくり、共感力を発揮するような取り組みが一つの方法としてあり、数少ない女性技術士がカギを握るので、女性も男性も仕事と家庭の両立ができるような環境づくりの実現が必要であると話されました。

(3) ワークショップの結果、各グループの方向性については以下の通りです。企業はプログラムを用意し、フレキシブルな勤務体制をつくりソフトとハードの整備を行う(管理職)、職場ではお互い家族のように思いやりを持って接する、女性の視点や男女の多様性を社会が意識する(女性)、能力で個人を評価し、多様性を持たせる、継続的な取り組みを行う(若手)、男女の得意なこと、個人の個性など生かした分業、産休・育休など取りやすい職場の雰囲気づくりに期待(学生)など。

今後に向けて

私が仕事をしてきた土木業界は、勤務時間が長いというイメージが学生にも定着していますが、できる限りワーク・ライフ・バランスの実現を目指してほしいです。業界の様々なシステムの改革とともに、人は男女問わず、皆個性があり得意なことも異なるので、その個性や能力を活かした仕事の仕方ができ、職場でも相手を思いやる気持ちをもてれば、若い技術者も、出産や子育て中の女性も、家族の介護をしている男性も、みんなのワーク・ライフ・バランスが実現するのだと思います。